

令和 8 年 7 月 22 日
国土交通省関東地方整備局
東京港湾事務所

令和 7 年度 優良工事等の事務所長表彰について

関東地方整備局東京港湾事務所では、令和 7 年度に完了した工事及び業務の中で、「特に優れた成績を収めた工事、業務及びその技術者」に対して、「令和 7 年度事務所長表彰式」を下記のとおり、執り行いますのでお知らせします。

また、建設業界全体の「生産性向上」及び「働き方改革」等につながる優れた取り組みを行った企業について、関東インフラ DX 大賞として表彰いたします。

○ 表彰件数等	優良工事及び優秀工事技術者	1 件及び 1 名
	優良下請企業及び優秀下請技術者	1 件及び 1 名
	優良業務及び優秀技術者	2 件及び 2 名
	若手・女性技術者奨励賞	2 名
	関東インフラ DX 大賞	1 件

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・横浜海事記者クラブ・東京都庁記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 東京港湾事務所

電話：03-5534-1363 メールアドレス：info-t83ab@mlit.go.jp

副所長 工藤（くどう）

企画調整課長 白木（しらき）

令和7年度 優良工事等の表彰について

1. 目的

令和7年度に関東地方整備局東京港湾事務所で完了した工事及び業務の中から、その施工及び業務への取り組み方が優秀で他の模範となる工事、業務及びその技術者を表彰することにより、技術力の向上及び円滑な事業の推進に資することを目的としております。

また、関東インフラDX大賞は、インフラ分野のDXに係る優れた取組を選定し、これを表彰することにより建設業界のインフラDX推進に資することを目的としています。

2. 表彰件数及び人数 [事務所長表彰] (別紙ー1参照)

優良工事及び優秀工事技術者	1件及び1名
優良下請企業及び優秀下請技術者	1件及び1名
優良業務及び優秀技術者	2件及び2名
若手・女性技術者奨励賞	2名
関東インフラDX大賞	1件

3. 優良工事等の概要及び表彰理由 [事務所長表彰] (資料参照)

4. 表彰式 [事務所長表彰]

日時 令和8年7月23日(木) 11時00分～

場所 東京都江東区新木場1-6-25

国土交通省 関東地方整備局 東京港湾事務所 3階大会議室

※表彰式は、東京港湾事務所長その他、事務所幹部が出席して、事務所長から表彰状が贈呈されます。

令和7年度優良工事等　〔事務所長表彰一覧〕

優良工事及び優秀工事技術者

工事名	優 秀 工 事 技 術 者 名 職 名	業 者 名 代 表 者 名 住 所
令和 5 年度 東京港中央防波堤外側 地区岸壁(-16m)(耐震)築造工事	たかばた なおき 高畠 直己 現場代理人	五洋・あおみ・JFE エンジ異工種建設工 事共同企業体 代表者 五洋建設株式会社 東京土木 支店 常務執行役員支店長 近藤 敬士 東京都文京区後楽 2-6-1

優良下請企業及び優秀下請技術者

担当工事名	優 秀 下 請 技 術 者 名 職 名	業 者 名 代 表 者 名 住 所
令和 5 年度 東京港中央防波堤外側 地区岸壁(-16m)(耐震)築造工事	たむら かつゆき 田村 勝之 主任技術者	寄神建設株式会社 東京支店 上席執行役員支店長 森 朋之 東京都中央区新川 2-20-7

優良業務及び優秀技術者

業務名	優秀技術者名 職 名	業 者 名 代 表 者 名 住 所
令和7年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(-16m)(耐震)技術検討業務	なかむら たかし 中村 隆志 管理技術者	株式会社エコー 代表取締役社長 田中 聡 東京都台東区北上野 2-6-4
令和7年度 東京港国際海上コンテナターミナル整備事業環境調査	ありもと たろう 有元 太郎 管理技術者	三洋テクノマリン株式会社 東京支社 東京支社長 丹羽 宏之 東京都中央区日本橋堀留町 1-3-17

若手・女性技術者奨励賞

業務の名称	技術者名 職 名	業 者 名 代 表 者 名 住 所
令和7年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(-16m)(耐震)技術検討業務	なかの ゆうすけ 中野 友輔 担当技術者	株式会社エコー 代表取締役社長 田中 聡 東京都台東区北上野 2-6-4
令和7年度 東京港国際海上コンテナターミナル整備事業環境調査	さとう かいと 佐藤 海斗 担当技術者	三洋テクノマリン株式会社 東京支社 東京支社長 丹羽 宏之 東京都中央区日本橋堀留町 1-3-17

関東インフラ DX 大賞

工事名	業 者 名 代 表 者 名 住 所
令和5年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(-16m)(耐震)築造工事	五洋・あおみ・JFE エンジ異工種建設工事共同企業体 代表者 五洋建設株式会社 東京土木支店 常務執行役員支店長 近藤 敬士 東京都文京区後楽 2-6-1

優良工事及び優秀工事技術者 事務所長表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 業者名	ごよう・あおみ・JFEえんじいこうしゆけんせつこうじきょうどうきぎょうたい 五洋・あおみ・JFEエンジ異工種建設工事共同企業体		
ふりがな 技術者名	たかばた なおき 高島 直己	職種	現場代理人
ふりがな 工事名	れいわ5ねんど とうきょうこうちゅうおうぼうはいていそとがわちくがんべき(－16m)(たいしん)ちくぞうこうじ 令和5年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)築造工事		
工 期	(自) 令和6年3月13日 (至) 令和8年2月27日		
事務所名	東京港湾事務所		
工事概要	本工事は、東京港中央防波堤外側地区の国際コンテナターミナル(Y3)において、工場製作工としてジャケット製作、本体工として鋼管杭打設及びジャケット据付、付属工として電気防食、雑工としてレグ蓋設置等を施工するものである。		
表彰理由 【工事】	本工事は、ジャケット四隅の位置に先行杭を打設後、製作工場から海上運搬してきたジャケットを大型の起重機船を使って先行杭に据付する。そのあと後行杭をジャケット中央付近の打設位置に4本打設し、計8本の鋼管杭と一体化させる。 隣接するY2岸壁は供用中のため、コンテナ船の入出港がある時は作業船を待避場所に待避させる必要があった。入出港船の予定は前日の夕方に確定するため、日々状況に合わせた施工を行う必要があり、1日当たりの十分な作業時間も確保できなかったため、施工管理や進捗管理に注意を要した。 ジャケット据付では予め作った鋼管杭、ジャケットの3Dモデルを使って、事前に関係者間で作業手順等を確認した。またこれらの3Dモデルによって据付状況をデジタルツインでリアルタイムにPC上に再現し、関係者間で共通認識を持ちつつ視覚的に状況を理解することで、所定の施工精度を確保した。さらに効率的な作業によって35%～50%程度の時間短縮効果があった。このためY2ターミナルの運営に支障を与えることなく作業を行うことが出来た。また工期内に工事を完成させた。 以上から、適切な施工管理及びICT技術を活用する工夫もあり、工程管理、出来ばえ、施工条件への対応等が優れていた。		
表彰理由 【技術者】	本工事は供用中のY2岸壁に隣接しており、Y2岸壁でコンテナ船が入出港する時は、工事用の作業船は待避場所に待避する必要があるなど、施工条件に制約がある工事だった。 隣接のY2岸壁はほぼ毎日入出港する船舶があり、入出港船がある時は運航に支障がない場所に待避することとなっていた。そのため現場代理人は前日の夕方までに入出港船の予定を入手し、翌日の作業計画を立てる必要があり、作業時間に変化のある環境で工事を管理していた。また、当日の突発的な入出港予定の変更にも適宜対応した。 その結果、港湾活動に支障を与えることなく工事を進め工期を守った。また鋼管杭の打設、ジャケット据付の厳しい施工精度等を満足していた。さらに鋼管杭及びジャケットといった重量物の吊り荷作業や転落に注意を要する工事だったが無事故だった。 その他学生を対象とした見学会やインターンの受け入れを行っており、担い手育成活動にも自主的に取り組んでいた。 以上から、当該工事の現場代理人は厳しい施工条件への対応や施工、工程、安全、及び品質の各管理に優れ、建設業における担い手育成活動も行っていたことから、優秀工事技術者として表彰に値するものである。		

完成・施工状況写真

令和5年度 東京港中央防波堤外側地区
岸壁(－16m)(耐震)築造工事 完成

ジャケット据付状況

優良下請企業及び優秀下請技術者 事務所長表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 元請業者名	ごよう・あおみ・JFEえんじいこうしゅけんせつこうじきょうどうきぎょうたい 五洋・あおみ・JFEエンジ異工種建設工事共同企業体
ふりがな 下請業者名	よりがみけんせつかぶしがいいしゃ とungskyoshiten 寄神建設株式会社 東京支店
下請工事種別	港湾・空港・海洋埋立工事 鋼矢板・鋼杭工、プレキャスト部材据付工
ふりがな 下請代表者名	もり ともゆき 森 朋之
下請住所	東京都中央区新川2-20-7
ふりがな 下請技術者名	たむら かつゆき 田村 勝之
職名	主任技術者
ふりがな 工事名	れいわ5ねんど とungskyokouchuououhouwaitei sotogawachukuganbeki (-16m) (たいしん) ちくどうこうじ 令和5年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(-16m)(耐震)築造工事
事務所名	東京港湾事務所
工事概要	本工事は、東京港中央防波堤外側地区の国際コンテナターミナル(Y3)において、工場製作工としてジャケット製作、本体工として鋼管杭打設及びジャケット据付、付属工として電気防食、雑工としてレグ蓋設置等を施工するものである。
下請工事概要	起重機船を使って鋼管杭打設及びジャケット据付の本体工の施工を行った。
優良下請 表彰理由 【工事】	鋼管杭打設では杭長50m以上の杭に対して、杭頭偏位の誤差50mm以下、傾斜0.2° 以下と高い精度で施工した。また、ジャケット据付では大きさ約48.5m×16m、重さ約330tの大型ジャケットを所定の位置に安全に据付した。 当工事の主要な工種である鋼管杭打設及びジャケット据付を適切に行ったことで、当工事の品質確保に貢献した。
特筆すべき 事項	当工事の施工場所は羽田空港の高さ制限がかかる範囲にあるため、鋼管杭やジャケットを吊上げる際は制限を超えないように施工する必要があった。当該施工者は高さ制限を守りつつ品質を満足した。

優良業務及び優秀技術者 事務所長表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 会社名	かぶしきがいしゃ えこー 株式会社 エコー		
ふりがな 技術者名	なかむら たかし 中村 隆志	職種	管理技術者
ふりがな 業務名	れいわ7ねんど とうきょうこうちゅうおうぼうはていそとがわちくがんぺき(－16m)(たいしん)ぎじゅつけんとうぎょうむ 令和7年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)技術検討業務		
履行期限	(自) 令和7年4月14日	(至) 令和8年3月13日	
事務所名	東京港湾事務所		
業務概要	本業務は、東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)に関して、施工に際し必要となる詳細(実施)設計及び施工中に生じた技術検討等を行ったものである。		
表彰理由	本業務は、東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)Y3岸壁のジャケット工法による整備にあたり、実施設計および施工段階で生じた技術的課題を整理し、合理的な対応方針を検討したものである。 設計内容としては、隣接するY2岸壁と整備するY3岸壁を一体利用するために、両岸壁の隙間に起因する上部工部材の発生応力の増大に対して安全性の検討を実施した他、基礎杭となる打設済みの試験杭に合わせてジャケット本体構造の再検討を行った。その他、既設護岸法線の測量結果を踏まえた上部工の撤去・復旧方法、配電管支持部材の設置間隔の整理、海側給電ボックス付属工の構造検討、既設護岸矢板の電気防食用電位測定装置の配置方法について検討及びこれらについて必要な図面修正、数量算出を行った。 また、施工に際しては、上部工のPC床版緊張時の係船柱・受け台との干渉により施工が困難であった箇所の対応策を検討した。 さらに上部工について、現地制約条件と目標工期を考慮した施工方法・工程検討及び概算工事費の算出を行った。 以上のように、多岐にわたる詳細な検討が円滑かつ的確になされ、業務成果は高く評価される。		

優良業務及び優秀技術者 事務所長表彰の概要及び表彰理由

ふりがな	さんようてくのまりんかぶしがいいしゃ とうきょうししゃ		
会社名	三洋テクノマリン株式会社 東京支社		
ふりがな	ありもと たろう	職種	管理技術者
技術者名	有元 太郎		
ふりがな	れいわ7ねんど とうきょうこうこくさいかいじょうこんでなたーみなるせいびじぎょうかんきょうちょうさ		
業務名	令和7年度 東京港国際海上コンテナターミナル整備事業環境調査		
履行期限	(自) 令和7年9月11日	(至) 令和8年3月16日	
事務所名	東京港湾事務所		
業務概要	本業務は、東京都環境影響評価条例に基づき、東京港国際海上コンテナターミナル整備事業(Y3)の環境影響評価に係る事後調査を行うとともに、東京都環境局に提出する事後調査報告書、事業計画変更に伴う変更届、(仮称)東京港臨港道路南北線建設計画の事業計画変更に伴う変更届を作成し、東京都環境局との協議に参加、必要な対応を実施したものである。		
表彰理由	本調査の業務内容は、事後調査、環境影響評価の検討、事後調査報告書の作成、環境影響評価手続きに関する資料作成等多岐にわたっていたが、環境影響に関する法令、調査手法等に精通し、また適切な経験や資格を有する管理技術者及び担当技術者の配置により、円滑に業務を実施できる十分な体制が構築され、業務を実施していた。 特に工程管理については、複数の事業に係る3件の環境影響評価に関する図書を並行して作成し、東京都環境局との手続きを遅滞なく進めるため、日割り工程表による工程管理や指摘事項に対する迅速な対応を行い、発注者に密に情報共有しながら迅速かつ柔軟な対応を進めることで、厳しい工程の中で全ての手続きを無事に完了するに至った。 また品質向上を図る取り組みも行っており、業務の節目毎にレビューを行い業務へ反映したほか、自主的な照査の実施に加え、社内有識者を含めた社内検討会による受注者独自の照査体制を実施することで品質を確保した。 関係機関との協議、調整においては、積極的かつ責任感を持った対応がなされ、関係機関の担当者からの信頼も得ながら、環境影響評価にかかる行政手続きの円滑な処理に大きく貢献した。 管理技術者は、多岐にわたる実施内容に対し、8名の担当技術者による作業をとりまとめながら、業務が円滑で遅滞なく進捗するよう的確な管理を行い、また業務の品質向上への高い意識で精力的に業務に取り組み、業務目的を十分に満足する成果を上げた。		

若手・女性技術者奨励賞 事務所長表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 会社名	かぶしきがいしゃ えこー 株式会社 エコー		
ふりがな 技術者名	なかの ゆうすけ 中野 友輔	職種	担当技術者
ふりがな 業務名	れいわ7ねんど とうきょうこうちゅうおうぼうはていそとがわちくがんぺき(－16m)(たいしん)ぎじゅつけんとうぎょうむ 令和7年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)技術検討業務		
履行期限	(自) 令和7年4月14日	(至) 令和8年3月13日	
事務所名	東京港湾事務所		
業務概要	本業務は、東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)に関して、施工に際し必要となる詳細(実施)設計及び施工中に生じた技術検討等を行ったものである。		
表彰理由	本業務は、東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)Y3岸壁のジャケット工法による整備にあたり、実施設計および施工段階で生じた技術的課題に対する合理的な対応方針を立案し、検討を行ったものである。 具体的な検討内容としては、隣接するY2岸壁と整備するY3岸壁を一体利用するために、両岸壁の隙間に起因する上部工部材の発生応力の増大に対して安全性の検討を実施した。更に、プロジェクトの重要課題である上部工工事の工期短縮に対し、現地制約条件と目標工期を考慮した施工方法・工程検討及び概算工事費の算出を行った。 担当技術者は管理技術者の下、Y3岸壁の端部床版の部材照査を主体的に遂行し、ジャケット製作方針変更に伴う床版構造の見直しの検討を実施した。また、本プロジェクトの重要課題である上部工工事の工期短縮に対し、重機配置・作業ヤード・投入するパーティ数を具体化した複数の工程案を作成し、クリティカル作業の抽出と作業の並行化等を踏まえた工期短縮案を根拠とともに提示することによって、対応方針の決定に尽力した。		

若手・女性技術者奨励賞 事務所長表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 会社名	さんようてくのまりんかぶしがいいしゃ とうきょうししゃ 三洋テクノマリン株式会社 東京支社		
ふりがな 技術者名	さとう かいと 佐藤 海斗	職種	担当技術者
ふりがな 業務名	れいわ7ねんど とうきょうこうこくさいかいじょうこんでなたーみなるせいびじぎょうかんきょうちょうさ 令和7年度 東京港国際海上コンテナターミナル整備事業環境調査		
履行期限	(自) 令和7年9月11日	(至) 令和8年3月16日	
事務所名	東京港湾事務所		
業務概要	本業務は、東京都環境影響評価条例に基づき、東京港国際海上コンテナターミナル整備事業(Y3)の環境影響評価に係る事後調査を行うとともに、東京都環境局に提出する事後調査報告書、事業計画変更に伴う変更届、(仮称)東京港臨港道路南北線建設計画の事業計画変更に伴う変更届を作成し、東京都環境局との協議に参加、必要な対応を実施したものである。		
表彰理由	本調査においては、事後調査計画書に基づき廃棄物調査と環境保全措置(大気汚染、騒音・振動、水質汚濁、生物・生態系及び廃棄物)の実施状況調査を実施した。廃棄物調査の手法は資料収集整理により、建設廃棄物の状況、建設発生土の状況、工事の実施状況の3項目について把握し、環境保全措置の実施状況については、既存資料を収集・整理し、この2つの調査にかかる事後調査報告書を作成した。また最新の工事計画を基に負荷量の算定を行い、その結果を反映した岸壁Y3及び臨港道路南北線にかかる変更届を作成し、事後調査報告書及び変更届にかかる東京都環境局との協議を行った。 担当技術者は、管理技術者の下、事後調査報告書及び変更届の作成、東京都との協議等において中心的な役割を果たした。特筆すべき点として、Y3の事後調査報告書・変更届及び南北線の変更届という3つの環境影響評価手続きにおいて、日割り工程表による工程管理の徹底、また東京都との協議における迅速かつ適切な対応を行い、厳しい作業工程の中、事業実施に不可欠となる環境影響評価の円滑な手続きに尽力し、本業務に大きく貢献した。		

関東インフラDX大賞 表彰理由書

工事名・業務名	令和5年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(－16m)(耐震)築造工事
受注者	五洋・あおみ・JFEエンジニアリング建設工事共同企業体
発注者	東京港湾事務所

工事・業務概要
本工事は、東京港中央防波堤外側地区の国際コンテナターミナル(Y3)において、ジャケットの四隅に位置する先行杭を打設後、ジャケットを製作工場からY3施工現場まで台船に乗せて海上運搬し、起重機船を使って据付する。その後後行杭を打設し、鋼管杭に固定する。鋼管杭とジャケットのレグとの間に隙間があるので、ここにグラウト材を注入し隙間を埋めて一体化する。さらに、当該工事ではジャケットを4基据付するのでジャケット同士を結合しジャケット4基を一体化する。さらに、鋼材の電気防食としてアルミニウム合金陽極の取り付けを行う。 ジャケット据付の許容範囲は法線に対する出入りが±50mmのところ、鋼管杭の出来形管理値は杭頭位置中心が+50mm、ジャケット製作の許容範囲は－10mm、+30mmとなっている。鋼管杭とジャケットの誤差が同一方向にでるとジャケット据付の許容範囲を超えることになる。そのため鋼管杭打設とジャケット製作の施工誤差を踏まえ、ジャケット据付時に鋼管杭外径とレグ内径の差の中で微調整して、据付許容範囲を満たす必要がある。
表彰理由
＜有効性＞ 事前に先行杭の打設出来形(杭頭中心位置・鉛直性)及びジャケットの3D出来形計測を行い、実測値によるモデルをデジタル空間上で再現した。また、デジタル空間上で誤差を考慮し最適な据付位置を決定した。デジタルツイン据付システムを活用した据付作業では、自動追尾トータルステーションで計測したジャケット位置をVR表示し、計画位置との差異をリアルタイムで確認しながら作業を進めた。また、デジタル空間上で様々な角度から据付状況を可視化することで、複数の関係者が同時に状況を把握できる環境を構築した。その結果、ジャケット据付は±4cm以内の精度を確保した。 先行杭打設やジャケット製作精度の確保も重要な要素である。先行杭打設時は、杭の固定、杭誘導管理システムと偏荷重検知システムを併用し、位置をリアルタイムに把握した。ジャケット製作では、組立段階ごとの3Dスキャナを用いた出来形計測3D組立シミュレーションを活用した。 ＜先進性＞ 従来は無線連絡によるジャケット据付誘導を行っていたため、鋼管杭とジャケット双方の出来形を考慮した三次元(X, Y, Z)での位置調整に時間を要していた。 デジタルツイン据付システムの導入により、据付状況を可視化し、ジャケットの移動や据付位置の情報を関係者間でリアルタイムに共有することができた。その結果、作業の効率化につながった。 また、隣接するY2バースは供用しているため、ジャケット据付日の夕方にコンテナ船が入域する予定となっていた。Y2バースにコンテナ船が離着岸する時は作業が出来ないことになっていたため時間の制約があった。従来の方法では、ジャケット地切りから据付までを約1.5～2.0時間要するところ、本システムを導入したことで約1.0時間で円滑に据付作業を行うことができ、据付時間短縮につながった。 ＜波及性＞ デジタルツインを活用した施工面での展望では、4Dシミュレーションを活用した施工検討、遠隔での施工状況監視、出来形計測への活用が可能となる。また起重機船のICT自動化へ向けて、クレーン動作・配置指令の情報収集及び妥当性の検証を行っていくことに繋がる。さらに4Dステップ図の作成により、他地域での安全教育への展開が期待される。他に特殊で施工例がまだ少ないジャケット工法において、関係者協議の円滑化や技術継承に活用していくことが期待できる。